

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

『奈良を知る 地域を知る』－世界遺産と環境－
～クロスオーバー若草 点から線へ、線から面へ～

【今年度の取組紹介】

コロナ禍により感染拡大防止を鑑み、地域教育協議会定例会を書面で開催し制限を設けながらできることから事業を進めました。中でも若草中学校区のメイン事業である「地域合同文化講演会」は、一部の制限を設けながらも、3年ぶりに従来の参集型により実施することができました。その後、参加者を中心に「コーディネーター会議」を実施し、情報交換を行いました。

＜地域合同文化講演会、コーディネーター会議＞

役員会を中心にコロナ禍における協議会の運営について検討を行い、恒例の地域合同文化講演会については従来の参集型により実施しました。今年度は、東大寺執事長の「上司 永照 様」をお招きし、『華厳～ひとりひとりが華であるという考え方～』と題して、私たちが住む奈良にとっても誇りを持てるお話をしていただきました。中でも、聖武天皇と光明皇后の関係性が垣間見られるお話や、大仏が2回も消失してもちゃんと復元された意味、さらにはあの奈良の大仏がなぜあんなふうに大きなものに作られたのかというお話、そして聖武天皇があんな大きな大仏にどのような願いを託されたのかということが本当によくわかりました。次に大仏をみるときも、きっと今までとは少し違った見方ができると思います。生徒の皆さんも、ぜひ自分が住む奈良に大きな誇りを持ち、また将来どこかで自分が奈良について語る力を育てて欲しいと思いました。生徒、教職員、地域コーディネーターが共に学ぶよい機会となりました。



【今年度のまとめ】

コロナ禍における感染拡大防止を最優先し無理のない活動を行いました。例年行われている地域合同文化講演会は従来の参集型を追求し、一部制限を設けながら実施しました。コーディネーター会議も実施し、1回ではありましたが対面で顔をあわせ、情報交換ができたのは地域同士、地域と学校の繋がりを継続していく意味でよかったです。

【来年度に向けて】

- ・コロナ禍においてできる事業を工夫しながらすすめていきます。
- ・今年度同様、地域合同文化講演会、地域コーディネーター会議の開催により、コーディネーターの繋がりを継続的に深めていきます。
- ・地域の歴史を学んだり地域のことをよく知った人材の発掘等をすすめキャリア教育の支援に繋げていきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成 学びをはぐくむ

取組目標

【今年度の取組紹介】

◇学習支援

➤「中3学習会」

3年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域の方や大学生のボランティアに協力いただき中3学習会を行っています。

➤「図書館学習」

定期テスト前の期間を中心に全学年希望者による図書館での学習会を行っています。

◇キャリア教育支援

➤「ゲストティーチャー」から学ぶ

キャリア教育の一環として様々な職業の講師の先生を招き職業についての講義を受けたり、実際に職業の実習体験を行いました。美容師、ブライダル関係、写真関係、保育士、警察官、獣医など生徒たちにとってとても興味深く、将来の進路選択に向けて有意義な体験でした。

➤「誕生学」講演会

誕生学など命に関する学習についてゲストティーチャーをお招きし講演を通じて学習することができました。

➤「ミニ講演会」

コロナ禍のなかではあっても、子どもたちにできるだけ豊かで、多様な生き方との様々な出逢いをしてもらいたいという思いから各学期に講演会を実施しました。『手話パフォーマンスのoioi』、『全盲のシンガーソングライター「堀内佳さん」』、『NPO法人あっとすくーる代表「渡剛さん」』、『NPO法人HOMEDOOR「中司年音さん」』。それぞれが実際に体験されたお話だけに、とても説得力があり、わかりやすいお話でした。生徒たちにとってとてもすばらしい出逢いとなりました。



【図書館学習】



【中3学習会】



【誕生学】



【ゲストティーチャー】



【ミニ講演会】

【今年度のまとめ】

コロナ禍において感染拡大防止を鑑み一部制限を設けながらも行事や学習体験を実施しました。保護者・地域の方々に学校に来ていただく機会が少なく、ともに活動する場面が設定できなかったのは残念でしたが、支援事業を通じて将来に向けての学びをはぐくんでいくことができました。

【来年度に向けて】

コロナ禍において来年度もできる事業を精選し感染対策を講じながら地域コーディネーターをはじめ地域の方々との連携をより深め、生徒たちが将来の進路選択に向けての学びをはぐくんでいけるよう継続的な支援をしていきたいと考えています。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りをもち、**多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

自分たちの育った校区に誇りをもち、その素晴らしさを校区内外に発信し、より地域のきずなを深め合えるようにする**【今年度の取組紹介】**

今年度も昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策で地域教育協議会のほとんどの事業が中止になり、実施することができませんでした。実施できたものから1つを紹介します。

・菜の花プロジェクト事業を通して

本校では、世界遺産学習・環境教育・地域交流の一環で、主に1・2年生の生活科で地域のボランティアの方々や保護者と一緒に取り組みました。

本事業の目的は、3つあります。1つ目は、児童に自身で菜の花の種まきから行い、育て、刈取り、種を採って、その種から搾取した油を東大寺に献納し灯明に使ってもらうことで、千年単位で文化財や伝統を守り、受け継いできた奈良の人々の営みや心との重なりを感じさせることです。2つ目は、菜種の油が食用やバイオ燃料（地球環境にやさしい）として使用し、油の搾りかすや菜の花は、畑の肥料となる循環型社会についても学ばせることです。3つ目は、大人（地域の方、保護者）と児童の世代間の交流や対話を促し、異なる世代との交流を通して、疑問を解決し、他者の思いを受け止めたりしながら、活動を通して「受け継ぐ」ということを体験的に理解させることです。

主な活動の流れは、5月菜の花刈取り、6月脱穀と搾油、9月東大寺に献納、10月種まき、11月移植です。

**【今年度のまとめ】**

本校区は、世界遺産に囲まれた素晴らしい環境の中にあり、様々な行事・伝統等、地域が守り続けてきた事柄が多くあります。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、事業ができるかどうか心配でした。しかし、何とか、子どもたちの為に、「ひと」「もの」「こと」との出会いを演出する事業が実施でき、生まれ育った地域に誇りをもち、地域の方々とのつながりが深まったように思います。地域の方々との「であい」の演出を今後も大切に、この活動を進めていきたいです。

【来年度に向けて】

地域の「ひと」「もの」「こと」と出会い、生まれ育った地域に誇りをもち、多様な進路選択ができる子どもを育てる取組を、コロナ過に対応した形に変えながら、進めていきたいです。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

佐保に生きる（地域と共に）

【今年度の取組紹介】

自然環境学習～ビオトープやバタフライガーデンを通して～

12年目を迎えるビオトープでの自然環境学習では、引き続きNPO法人や専門家の指導を受けながら、子ども達が佐保の自然や環境から課題を見つけ、自らの問題として捉えながら、一人一人が自分にできることを考え、実践していくこと学んでいます。今年度は、本校創立100周年事業の一環でビオトープを改修し、専門家の指導を受けながらホタルを育てる計画を進めました。

地域連携活動～マーチングバンドの演奏～

昨年までは新型コロナウイルス感染症の影響で、発表の場はもとより練習時間の確保もままなりませんでしたが、今年度は運動会や創立100周年記念式典・地域団体主催のスポーツ大会など、発表の場があったことで、児童のモチベーションもあがりました。保護者や地域の方は、久しぶりの演奏に大変感動しておられました。

地域連携活動～英語でアート～

地域の方の紹介で、外国人の講師をお招きし、英語で指導を受けながら6年生が作品作り（左写真参照）に取り組みました。創立100周年記念式典の会場にも展示し、多くの方にご覧いただきました。



【今年度のまとめ】

ビオトープの学習では、地域の方や大学の先生の協力のおかげで、ホタルのエサとなるカワニナの生息状況を調査するなど、児童だけでは難しい学習に取り組みました。マーチングバンドの活動では、久しぶりに発表の機会を得たことで、子どもたち自身はもとより保護者や地域の方にも大変喜んでいただけました。英語でアートは、単年度の取組でしたが、想像以上の作品の仕上がりに子どもたちは満足していました。

【来年度に向けて】

新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、今年度実施できなかった活動も積極的に実施していきたいと考えています。活動予算の使途が制限されているため、広げにくい活動もありますが、知恵を振り絞って活動を継続していきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、 多様な進路選択ができる子どもの育成

取組目標

地域とのふれあい、人・もの・こと との豊かな体験活動を通して、学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる

【今年度の取組紹介】

今年度は、コロナ禍以前に行ってきた様々な事業について、形を変えたり新しい形にしたり模索しながら、多数のボランティアの方々の協力のもと取組を行うことができました。

本校では、①生活科や総合的な学習の時間を中心とした多様な体験や多くの方々との出会いの場の設定、②図書室や学年園を中心とした学習環境整備を進めています。新興住宅地が多くを占める本校区において、これらの学習を通して児童に地域への理解を深め、愛着や誇りを持たせることを主眼としています。今年度は、新たに昔遊び体験の取組をスタートさせました。

本校の特色の一つである「菜の花プロジェクト」は、世界遺産学習、環境教育へと体系的につなぎ、魅力ある総合的な学習の時間を構築し、特色ある学校づくりをめざしています。今年も、とれた菜種油をボランティアの方々とともに、5年生が春日大社と東大寺に灯明油として届けました。子どもたちにとって大変貴重な機会を与えていただくことができました。



1・2年生昔遊び体験



5年生 菜種油奉納



全学年 読み聞かせ

【今年度のまとめ】

今年度も感染状況を注視しながら、「菜の花プロジェクト」を中心に、安全見守り活動、学習支援活動を深化・発展させてきました。

「お話したつきゅうびん」の方々が朝の読書の時間（毎月2回）に、子どもたちの心に響く素敵なお話を届けてくださいました。「今日はどんな絵本かな？」「前に読んでもらった〇〇を図書室で借りた！」と読書意欲へ繋がっています。

見守り安全の方々には「命を考える集会」に参加していただき、命の大切さ、どんな思いで毎日見守っているのかお話しをしていただきました。子どもたちは、お話を聞いて、自分たちの安全を見守って頂いていることへの感謝の気持ちを手紙に書きました。

また、昔の町について学習や紙すき体験では地域の方にゲストティーチャーとして来ていただいたり、昔遊び体験では名人として子どもたちに手取り足取り教えていただいたり、たくさんの方々に子どもたちは関わることができました。教科書では学べない、豊かな学びにつながりました。

【来年度に向けて】

多くの方にご協力いただき安全で安心な学校生活を送ることができています。当たり前の裏にある多くの方々の助力を忘れず、常に感謝の気持ちをもち続けたいと思います。今年度同様、感染対策を講じ、工夫しながら活動を行っていきます。地域との絆、ふれあいを大切に、地域の方々から教えて頂いたことを学習活動に生かし、深い学びへとつなげていきます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りをもち、多様な進路**選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域の自然環境や様々な人との関わりを活かした体験活動を構築し、豊かな心とたくましい体を培い、佐保幼稚園で学んだことを誇れる子どもの育成

【今年度の取組紹介】

○ 大佛鐵道のことを知ろう！（わくわく地域連携事業）

絵本「イナヅマごうがやってきた」を見たり、大佛鐵道公園に行ったりして、日頃から大佛鐵道に親しみをもっていた子ども達。そこで、地域で活動されている大仏鐵道研究会の方をゲストティーチャーに迎えお話を聞くことにしました。機関車が走る風景は想像できるのですが、時代の流れを理解することが難しい子ども達は、映像や写真を見せていただくと「そこ家の近くや」「え、そこ走ってたん」と、自分達の住む地域と大佛鐵道がつながった瞬間でした。

また紙芝居も見せていただき、奈良から木津川市加茂駅までの様子も知ることができました。機関車や鐵道だけでなく、自分達が暮らす地域や歴史にも興味をもつ経験になり、後日、家族で遺構を見に行った話も聞かれました。



○ さほっ子クラブ（文化ふれあい事業）

劍道・柔道・茶道から希望のクラブを選び年間7回、講師の先生方に指導していただくさほっ子クラブは、今年で18年目を迎えました。子ども達は、日本の伝統文化を通して、それぞれのクラブで新しいことを学んだり、できるようになったりします。今年度は、クラブが3つになりましたが、子ども達は真剣に取り組み、礼儀作法も身に付けることができました。日本の伝統文化に触れる貴重な経験となっています。



【今年度のまとめ】

今年度は本園創立70周年、佐保小学校創立100周年の年でもあり、より地域の幼稚園として子ども達が「佐保を知る」そして「佐保を好きになる」ことを願い、職員と地域の方が取組の方法を検討しながら進めてきました。園の実情もあり予定通りに進められなかったところもありましたが、「大佛鐵道のことを知ろう」など、新しい取組を通して地域の方とのつながりが広がり、子ども達も地域により親しみを持つこともできました

【来年度に向けて】

保護者の方と毎日関わる事ができるという幼稚園の利点を活かし、子どもの姿を啓発し、時には一緒に取り組む機会をつくるなどの工夫をして、保護者の方の地域やこの事業への意識も高めていきたいと思ひます。

めざす子ども像

生まれ育った地域に誇りを持ち、**多様な進路選択ができる子どもの育成**

取組目標

地域や小学校との連携を大切にし、様々な人とのふれあいや体験活動を通して豊かな心と体を育む。

【今年度の取組紹介】

○体力づくり事業では、フラフープの講師を招いてフラフープのショーを見せていただきました。その後、フラフープの持ち方や回し方など、指導をしていただきました。初めてフラフープのいろいろな遊び方に魅了され、友達と一緒に合わせる心地よさを味わうことができ、貴重な機会となりました。



○畑づくり事業では、畑の先生として地域の方に来ていただき、苗の植え方を教えてもらいました。夏には水やりや草引きなどの世話をし、秋になると大きく育ったサツマイモを収穫することができました。畑の土や苗の生長、野菜に触れることで収穫の喜びと食への感謝など豊かな心の育ちと共に、水やり・草引き・虫探しなど世話や発見をする喜びは貴重な体験となりました。



○おはなしの会事業では「おはなしの会」の方々に来ていただき紙芝居や絵本の読み聞かせや素話、手遊び、パネルシアターなど様々な形式でお話を聞かせていただきました。昔話や季節の話など子ども達は毎回楽しみにしていて、集中して話を聞く力に繋がっています。



【今年度のまとめ】

コロナ禍で回数や人数の制限を行いながら事業を進めてきましたが、熱心で温かい地域の方々に支えていただき、様々な生活体験をすることができました。畑づくり事業では、地域の方からの丁寧な指導を通して野菜の生長や収穫の喜びなど様々なことを教えていただいたことは、学び多い体験となりました。また、体づくり事業では、フラフープ教室でフラフープのいろいろな遊び方を指導していただいたことで、子ども達がフラフープを好きになり、室内外で友達と一緒に体を動かして、楽しむことが出来ました。

【来年度に向けて】

これまでの事業を継続し、様々な体験を通して豊かな心と夢を育むために、園・家庭・地域の連携を深め、環境構成の工夫や保育内容の充実を図り、笑顔あふれるこども園をめざしていきたいと思っております。地域の方々の力をお借りしながら、地域に開かれたこども園としての役割を果たしていきたいと思っております。